



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/20 (月)	▲ 600	▲ 6,100	▲ 6,700	国庫短期証券発行 (3M) 流動性供給	国債補充供給 1,400		日：日銀の高田審議委員が中国経済連合会で講演 米：米景気先行指標総合指数 (9月)
10/21 (火)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000				日：臨時国会召集 ：日銀の水見野副総裁が「GZEROサミットジャパン2025」で講演 欧：ラガルドECB総裁がノルウェー中銀の気候カンファレンスで基調講演
10/22 (水)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	国債発行 (GX10年)			日：貿易収支 (9月) 欧：ラガルドECB総裁が金融関連サミットで基調講演 (フランクフルト)
10/23 (木)	トン	+ 3,000	+ 3,000				日：春季生活闘争基本構想の公表 日銀金融システムレポート (25年10月号) 米：新規失業保険申請件数 (10月18日終了週) 欧：EU首脳会議 (ブリュッセル)
10/24 (金)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	流動性供給			日：全国CPI (前年比) (9月) 米：CPI (9月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆2,300億円減少し、489兆6,800億円から始まった。その後、国債発行や源泉税揚げ、年金定時払い等の要因により増減し、10月17日は497兆4100億円 (速報) で越えた。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。
ターム物は1W～3W物0.460%～0.610%のレンジ、1M～3M物0.590～0.620%のレンジで出合が見られた。
来週の予定は、国内では、10月20日に日銀の高田審議委員が中国経済連合会で講演、21日に日銀の水見野副総裁が「GZEROサミットジャパン2025」で講演、24日に全国CPI (前年比) (9月) の公表、海外では21日と22日にラガルドECB総裁の基調講演、24日に米CPI (9月) の公表などがある。

＜レポ＞

足許GCは週を通して+0.495%～+0.50%の狭いレンジで取引された。短国の発行が重なった17日の取引では+0.50%を上回る出合いも見られた。
SC取引は2年470～477回債、5年155～180回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

＜CP＞

今週の入札発行総額は約1兆1,000億円で、週間償還額の9,650億円を上回った。発行残高は、先週末時点の23兆3,532億円から、10月16日時点で23兆8,731億円へと増加した。発行市場では、ガス業・卸売業・建設業をはじめとする幅広い業種で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台後半、3か月物で0.70%台を中心に、幅広い水準での取引が確認された。
来週の償還額は1兆1,000億円となっている。発行市場は、月末週に向けた底堅い調達ニーズから、相応の発行が見込まれる。発行レートについては、政策金利の引き上げに対する警戒感があり、引き続き水準を見極める展開が予想される。
【レンジ】CP3M (a-1+) 0.60%～0.75% 現先取引 0.40%台

＜TDB＞

10月16日の1Y (1338回債) の入札は、最高落札利回り0.7505% (前回債0.7343%)、平均落札利回り0.7414% (前回債0.7273%) となった。
10月17日の3M (1339回債) の入札は、最高落札利回り0.4680% (前回債0.4954%)、平均落札利回り0.4571% (前回債0.4901%) となった。
来週の入札は24日に3Mが予定されている。

【無担保コールレート】

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.55 ～ 0.65
2M	0.60 ～ 0.65
3M	0.64 ～ 0.75
6M	0.75 ～ 0.90

【オープン市場】

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.60 ～ 0.75